

高齢者ホーム最前線

「住み心地」の良さ、それは「家族」という絆で結ばれた空間である。



庭園に面したゆとりのあるレストラン



リーフヴィラ湘南台代表 落合明子さん

「冬の晴れた日には雪化粧した富士山がきれいに見えるんですよ」とリーフヴィラ湘南台「代表の落合明子さん」は「ぜひ冬にも来てくださいな」とわれわれ取材班を笑顔で迎えてくれた。

明子さんは、肩書は代表取締役だが、その飾らぬ親しげな容姿は、いつでも家族を迎え入れてくれるお母さんのような感じの人である。そして専務は、この湘南台で生まれ育った、夫の将松虎さん。つまり夫婦がこの施設を切り盛りしている。隣には将松虎さんの実家があり、裏の畑ではご両親が、いつも施設の食卓に出す新鮮な無農薬野菜を作っている。

二人の明るさと気さくな人柄のせい、スタッフはもちろん入居者の笑顔が絶えない。なんとも家庭的な雰囲気のある空間である。

「すぐ隣に介護付有料老人ホーム『サンライズヴィラ』があつて、重度で介護が必要な人はそのホームに住み替えが可能なんです。でも、みなさんずっとここに居たがるんですよ。それで介護が必要になっても安心して生活できるようにと、地元のお医者さんに訪問医療を頼んだんです」明

社長は妻、専務は夫、となりの野菜畑を耕すのは専務の母。強い絆のある、この土地の人間だからこそできる手作りのホーム運営。だから入居者もスタッフも、みんなこのアットホームな施設が好きなんです。



レストラン脇にあるファミリールームは、周囲のカーテンを外すとイベントステージに



エントランス横のラウンジ。暖炉は灯がともったように見える

子(さん)
信頼し協力してくれる知人たちがいるというのは、地元であることの強みだ。そして明子さん夫婦とスタッフが作る、アットホームな雰囲気がある安心感を与えてくれるのだらう。

だからこのホームでは当然、看取りまで行うようになった。

子どもが親を気遣い、心配するのと同じようにしているだけ

「元氣な人がこのホームに入つて、安心して一生住めるホーム」をと考えて開設した『リーフヴィラ湘南台』。そのためには入居者が今なにを必要としているのか、また、この先、歳を増すごとに、どのようなサポートが必要とするのかを知らなければと、明子さん夫婦はホームに住んで入居者と一緒の生活をする。まさしく住み込みの経営者である。

ぬくもりを感じてほしいからすべて手作りで行う

「私たち以外にも、看護師も住んでいます。このように一緒に生活していますと、具合はどうか、顔色がさすこし悪いのかなど、お一人お一人の状況がよくわかります。もちろんプライバシーは尊重します

が、本当に具合が悪くて気を付けなければと思う人には、夜中にそつと部屋を開けて確認することもあります」

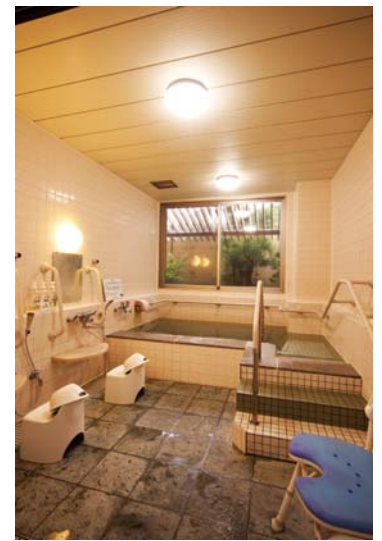
そして実際に救急車で搬送して、命を取り止めた入居者もいたと明子さんは話す。

また、初期には外部のヘルパーセッションを利用していましたが、日常の個人の生活状況を知らない人がケアするのはちよつと違うのではないかと考えて、ヘルパーセッションも施設内に併設したという。

充実した生活を、との思いから、様々なジャンルの文化講座やフラワーアレンジメントなどの趣味を活かすカルチャー教室、健康を意識したヨガや体操などを実施してい

なんとほのぼのとしたホームなんだろう。明子さんたち夫婦二人だけでなく、スタッフ全員が、この『リーフヴィラ湘南台』で働くことを楽しんでるようだ。

「家族」という絆を築き上げ、信頼し合える人間関係がここにはあるのだ。



好評を博する炭酸泉。高血圧、冷え症、心臓病などに効く



居室にはペンダントタイプのナースコールも備えられている